

仙台市総合計画審議会 第3回まちと活力部会議事録

日 時	令和2年2月3日（月） 18:00～20:05
会 場	TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール2
出席委員	飯島淳子委員、菊地崇良委員、今里織委員、今野薫委員、榊原進委員、 庄子真岐委員、竹川隆司委員、館田あゆみ委員、浜知美委員、舟引敏明委員、 渡辺敬信委員、渡邊浩文委員 [12名]
欠席委員	姥浦道生委員、遠藤耕太委員、西澤啓文委員 [3名]
仙 台 市 (事務局)	福田まちづくり政策局長、梅内まちづくり政策局次長、 郷湖政策企画部長、松田政策企画課長、郷古地方分権・大都市制度担当課長、 柳沢政策企画課主幹、千代谷政策企画課主幹
議 事	1 開会 2 議事 (1) 市民参画事業について (2) 基本計画の検討について (3) その他 3 閉会
配付資料	1 区民参画イベントの実施概要 2-1 仙台市基本計画検討資料 概要 (修正版) 2-2 仙台市基本計画検討資料 (修正版2) 参考資料 女性たちの政策提言 (新総合計画に仙台の女性たちが声を届ける プロジェクト) 委員提出資料 東北大学公共政策大学院研究成果

1 開会

○郷湖政策企画部長

本日は、大変お忙しい中お集まりいただきまして誠にありがとうございます。定刻となりましたので、これより「まちと活力部会」を始めさせていただきます。

それでは、部会長よろしく願いいたします。

○渡邊浩文部会長

ただいまから「仙台市総合計画審議会 第3回まちと活力部会」を開会いたします。どうぞよろしく願いいたします。

議事に入る前に、いつものことですが定足数等の確認を行います。事務局から報告をお願いいたします。

○郷湖政策企画部長

本日は現時点で12名の委員の方々にご出席をいただいております。定足数を満たしていることをご報告いたします。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。承知いたしました。

そして、会議の公開・非公開の取り扱いですが、前回と同様、公開としたいと思いますが、皆さんよろしいでしょうか。

(了承)

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。それでは公開といたします。

続いて、本日の議事録署名委員の指名ですが、前は菊地委員にお願いしましたので、今回は次の今委員にお願いしたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。

(了承)

それでは事務局より、資料類の確認をお願いします。

○郷湖政策企画部長

お手元に、座席表、次第、資料一覧、資料1、資料2-1、資料2-2を置いております。それから、前回までの主要な資料を綴じた青いファイルを、いつもの通りですが机の上に置かせていただいております。それから、参考資料といたしまして、「新総合計画に仙台の女性たちが声を届けるプロジェクト」にて取りまとめました「女性たちの政策提言」を、机の上に置かせていただいております。

また、委員提出資料といたしまして、飯島委員から研究室の学生の皆さんが、総合計画の制度的、実証的研究について研究成果をまとめられたということで、資料をご提出いただいております。以上でございますが、資料の不足などございませんでしょうか。

○渡邊浩文部会長

資料はよろしいですね。せっかくご提言いただいておりますので、概要をご説明いただきたいと思います。まず「女性たちの政策提言」という資料は事務局から説明いただくということでよろしく願いいたします。

○松田政策企画課長

女性たちの政策提言について概要をご説明いたします。参考資料の赤い枠で囲ってあります「女性たちの政策提言」をご覧くださいと思います。

まず表紙をおめくりください。1ページにございますように、こちらは、仙台の女性たちの声を集めた提言でございまして、策定された方々が下のメンバーというところにありますけれども、仙台市の外郭団体である「せんだい男女共同参画財団」が主催する女性リーダープログラム、それからさまざまな講座を受けた方々で、民間企業や団体で活躍されて

いる女性の方々などがまとめたものでございます。昨年 12 月に市長が受け取った提言書でございますが、この審議会でも共有を図るため、本日お配りしているところでございます。

概要につきましては 5 ページをお開きください。基本理念として「わたしたちがこのまちを創っていく」ということで、策定された方々が提言するだけではなくて、まちづくりと一緒に進めていくという姿勢で提言をまとめたものでございます。そして具体的に 7 つの分野で目指す仙台市の姿をまとめられたということでございます。例えば 1 の「多様性・共生」の視点であるとか、それから 2 の「子育て・教育」の重視、また、3 の「生涯を通じた学び」の観点など、現在進めておりますこの審議会の審議の内容や方向性とも重なる部分が多いかと思っております。

6 ページ以降は、それぞれの目指す都市の姿の実現に向けた政策の方向性や、その下には取り組みアイデアがまとめられております。

また、もう 1 つ、別冊として本日お配りしております「女性たちの政策提言別紙」というものがありますが、こちらは提言をまとめるまでの検討のプロセス、そして出されました具体的なご意見がそのまま載っているものでございますので、後ほどご高覧いただきたいと思っております。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。こちらにある 7 つの分野というのは、われわれが議論しているのと相当オーバーラップする部分がありますし、さらに具体的なアイデアというのも、今のというよりは今後の議論に生きるのではないかなと思うところです。これからの議論に生かしていただければと思います。

そして、飯島委員が率いるチームといたしますか、指導されている学生さんがまとめられたという成果もご提出いただいておりますので、先生からお願いします。

○飯島淳子委員

お時間を頂戴して恐縮でございます。東北大学公共政策大学院のワークショップという授業で、仙台市総合計画のあり方について、7 名の学生が 1 年間調査・研究を重ね、ようやく 1 つの政策提言にたどりつきましたので、簡単にご報告させていただきます。

2 ページ「仙台市の人口減少への危機感」では、人口減少に関するさまざまなデータのなかで、「高齢者一人を支える現役世代の数」に着目し、仙台市は 2015 年では指定都市のなかで上から 3 番目だったのが、2045 年には下から 3 番目になるといった、非常に急激な変化が予測されていることを示しております。これも含めた人口減少への危機感が、学生の問題意識の基礎になっております。20 年後、30 年後というのは学生にとってはまさに社会を支える世代になるということもあるのか、私が想定する 20 年後、30 年後に対する危機感とはまた異なる危機感を有しているということを経験して感じました。そして、こういった問題は「負のスパイラル」となってさまざまな問題につながっていく。これに対して、余裕のある今から備える必要があるのではないか。そのためにこそ総合計画制度を活用すべきであるとして、総合計画制度の意義を見出しております。では仙台市に

とってどのような総合計画が必要なのか。4ページ、5ページに進んでいただきまして、実効性の確保とそのため合意形成が必要だ、というのがキーワードになっております。

6ページでは、「実効性を担保するために」、「市民と行政の合意に基づいた総合計画の策定」が必要だけれども、いきなり全市的な合意形成は難しいということで、より身近な地域、すなわち区に着目する、としております。区は指定都市ならではの制度ですが、他の指定都市、京都市、大阪市、川崎市、新潟市に伺って話を聞いてまいりましたところ、それぞれに工夫を重ねておられます。仙台市もふるさと支援担当を設け、地域の課題解決のための実証事業を始めておられますので、区に着目した合意形成、そして実効性の担保ができないかということで、7ページに「政策提言の全体像」を描いております。

8ページからはそれぞれの政策提言のポイントを記しておりますので、7ページを用いて簡単にご説明いたしますと、まず「区のみらい委員会」がございます。これは区民と行政の協働による組織として、区別計画の策定・実施・振り返りを一貫して担う組織として設置されます。ここで策定したものを「地区運営会議」が実施する。現在、小学校区単位の地域運営組織がさまざまな領域で注目されていますが、そういった組織を、区別計画を自ら実施していく局面でも活用していくべきではないか。ただ、こういった区民主体のバックボーン組織を立ち上げて動かしていくというのは、それだけではうまくいきませんので、区役所の機能を強化することもセットで提言しております。区長が「区マネージャー」という職を兼任するとありますのは、大阪で区シティマネージャー制度について伺ってきたことなどを参考にして仙台市版の区マネージャー制度を設計したものです。そして、「地域活動相談窓口」とありますが、最近、相談機能も重視されていますので、これをも用いた、いわば伴走型の支援をセットにする。こうして、区に着目した一体としての政策提言をつくったところがございます。

14ページでは、ただつくれば動くというものではありませんので時間をかけてステップを踏んでいこうということで、まずは区レベルでの体制づくりをし、立ち上げて動かしていく、ステップを踏んだうえで全市的な合意形成に生かしていけないか。そうして、人口減少社会に対応した社会を、仙台市の市民と行政の協働体制をつくっていきたい。以上が学生からの提言でございます。

先ほどの「女性たちの政策提言」のようなビジョンを描くというよりも、私の言葉で言えばむしろ、公共空間のシステムなり仕組みを変えていくというのが提言の肝になっているかと思っております。

最後に、ヒアリング先一覧にあります通り、政策企画課の皆様には1年間を通じて何度もお邪魔し、得難い示唆を頂戴しました。審議会の委員の先生方にもご多忙の中、貴重なご教授を賜りました。この場をお借りして重ねて心から感謝申し上げます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。面白いですね。区別計画、小学校区に着目したのは建築都市計画の分野で本当に大事な視点でして、こういったところが実を結ぶような、まさに土台づくりですね。そういったところにまで議論を踏み込めていけると良いなと感じたところですね。よろしいでしょうか。では議事に入っていきますと存じます。

2 議事

(1) 市民参画事業について

○渡邊浩文部会長

今日はお手元の資料にある通り、議事は大きく2つでございまして、1つ目は「市民参画事業について」、もう1つが「基本計画の検討について」ということです。1の「市民参画事業について」、これまでもさまざまに市では実施していらっしゃるんですけども、その後さらに、さまざまに展開していらっしゃるということでその説明をまずお願いいたします。

○松田政策企画課長

区民参画イベントの実施概要について、資料1に基づきましてご説明します。

こちらの内容ですけれども仙台市では、総合計画の策定に当たりまして全市のイベントを行いますほか、区別計画の策定も想定しまして、このような区ごとの参画イベントを実施しているところでございます。昨年度も年度末に行いましたが、本年度も引き続きこのような資料のもと、行うところでございます。

若林区、宮城野区、泉区の3区につきましては、既に実施したところでございまして、当日は若い世代の方々の参画もいただきながら、区の将来像、そして必要な施策、取り組みなどにつきましてワークショップを行ったところです。

若林区では4つの都市個性ごとに、若林区の将来を考えたところでありまして、また昨日行いました宮城野区では、参加者が考える宮城野区の将来イメージをそれぞれ絵に描きまして、それを1枚の地図に貼り付けていくなど、これまでになかった取り組みを行ったところでございます。また、泉区におきましては、泉区の特色なども踏まえながら目指すまちづくりの方向性についてワークショップで議論を深めたというところでございます。

青葉区と太白区につきましては2月の9日、16日にそれぞれ実施する予定でございまして、このような各区の市民参画イベントで出されました意見をもとに、引き続き各区と調整しまして区別計画の策定、たたき台をつくってまいりたいと思います。なお各区のイベントで出されました意見等につきましては報告書がまとまり次第改めて詳細をご報告したいと思います。その下には区ごとのチラシが付いておりますので、内容につきましてより詳細にということであればこちらのチラシをご覧いただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。チラシを拝見すると、榊原委員ですとか、浜委員ですとかファシリテーターとして参画されたようで、お疲れさまでしたと言いますか、ありがとうございます。せっかくですのでファシリテートされた感想だとか、当日の雰囲気やご意見の主だったところだとか、ご紹介いただければと思うところです。

まずは、若林区からということで、榊原委員からいかがでしょうか。

○榊原進委員

各区のスタートを若林区で切らせていただきました。岩間委員と私の2名でファシリテーターしたのですけれども、かけ合いファシリという新しいジャンルができたかのような楽しいファシリテートでした。自称30代含め中高校生中心に40名、50名ぐらいの方が参加しました。各グループには大学生がグループリーダーとして、若い方たちの議論をリードする形にしました。本当に若者主体で取り組みました。中間とりまとめで整理した4つのキーワードによってグループごとに整理し、最終的にはいろいろな提言が出ました。提言だけでなく各自アクションに移してもらいましょうということで、最後は小さなカードに自分たち、自分のアクションを書いて持って帰ってもらうというような取り組みにしました。各グループでもこんな若林区になりたいねっていうことと、自分のアクションについて色紙の寄せ書きを作ってもらいましたが、今度区役所の1階にも貼り出す予定だそうです。

一番印象に残っているのは、終わった後に僕と岩間委員のところに来てくれた男子高校生が目をキラキラさせてきて、すごく楽しかったという話と、来年やるのだったら是非後輩を連れてきたいということと、その時は僕もお手伝いしたいと言っていました。とても嬉しかったです。なので、今回は恐らく総合計画の策定のプロセスの一環でされているのですが、できれば区ごとの担い手づくりみたいなこと、当事者意識を高めるという意味では、毎年、総合計画のチェックだけではなくて、自分たちでこんなことをやれるのだという取り組む場としても是非続けてほしいなという感想を持ちました。提案内容については報告書が今作成中だと思います。そちらにお任せしたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。それでは宮城野区でファシリテーターをされた浜委員、よろしく願いいたします。

○浜知美委員

宮城野区は3時間で話をまとめて、皆さんが10年後想像する未来を絵に描くというちょっと初めての取り組みをやってみました。最初できるか心配ではあったのですが、絵に描くということは本当により具体的でなければ描けないので、それに向かって集中的にみんなが話してくれて、最終的には、今日持ってきたかったのですが、1枚の紙に宮城野区の絵を書いて、そこにそれぞれが描く未来を貼り付けていくというかたちを取りました。絵だけではなくて、そこに注釈を入れることで誰が見てもどういうことをするかが分かるような絵に仕上げました。

全体は小学生から70歳の方まで幅広い方々がお話に参加して、チームに分かれていたのですが、そこに宮城野高校の美術部の方にも入っていただいて、より絵を上手に描くというか、活発的に描くように促してもらう仕組みを取りました。その中に福祉大の学生も入って、学生と住民というか、幅広い年代でそれぞれ話し合っていけるようにしていました。

具体的な話としては、宮城野区なので沿岸部と東口をぐるっと回るようなバスツアーを行いたいとか、アラバキロックフェスを夢メッセにもう1度戻したいとか、あとは、貞山

堀に屋形船を浮かばせてイベントを起こしたいとか、本当により具体的な施策が出てきました。こういうイベントをいっぱいやってほしいという意見がたくさん出たので、これからも定期的にやっていただけると良いのではないかと、私も同じく思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いいイベントができたようで良かったですね。定期的を開催したいというところは大事にしたいなと感じたところです。今、榊原委員、浜委員から当日の雰囲気も補足いただきましたけども、そのほか、ご質問はありますか。

竹川委員、どうぞ。

○竹川隆司委員

素朴な疑問で、これを見て少し思ったのですが。すごくいい取り組みだなと思ったのですが、なぜ参加者の層が、ターゲットがバラバラなのがちょっと気になって。せっかく参画イベントなのであれば、小学生もOKなのか、中学生・高校生も入ってやるのか、先ほど浜委員が話した通り、おじいちゃんおばあちゃんもこっちはいらっしゃったりしていますし。でも30代までの方というのあれば、30代の心を持っている方だったらいいと思うのですが、対象年齢が違うことの意味があるのかと、せっかくなら合わせた方がいいのではないかなと疑問に思ってしまうので、せっかくいいイベントを開催しているので疑問の余地を挟まないようにしたほうがいいのではないかなと思った次第です。何か意図があれば教えていただきたいと思いました。

○松田政策企画課長

内容、参加者の年代ややり方も含め、基本的には各区の意向を尊重してこうなっているわけですが、各区としましては基本的には、やはり、日頃わりと年代が上の方とやり取りをすることが多い。町内会長さんも然り、まちづくりに関わる方々も然りということで、一定年代より上の方々と話すことが多いので、こういうイベントの時はやはり若い方々を中心に意見を聞きたいというところは比較的共通していました。一方でそこにターゲットを当てた区もあれば、やはりさまざまな団体がたくさんあるので若い方が中心だけでも、それ以上の年代の方もというところもあり、そこは区のまちづくりに関わる方々の、これまでのやり取りであるとか、今後のやり取りを想定しまして今このようなかたちになっているということでございます。

区の間わるところとして、より大学と連携しているところであればそこをもうちょっと視野に入れたり、小学校とやり取りをしている区もありまして、若林区もそうだと思うのですが、そういうところはより小学生まで入れてみたり、これまでの区のまちづくりの、いわゆる関係者との成り立ちから多少ばらつきが出ているということでございます。

○竹川隆司委員

ありがとうございます。最後、着地としてちゃんとみんな聞きましたよとなってくれればいいのかなと思いました。

○梅内まちづくり政策局次長

ありがとうございます。先ほど言いましたように報告書をこれから作るのですが、去年のイベントの結果なども、各区で共有しました。昨年の例でも非常に若い人が多かった区もあるので、今回うちも若い人を入れてみようと、よその区の取り組みを見ながら今年のイベントを考えてきているところがございますので、今回の報告書も区の方と共有したいと思います。次回以降のイベントも宿題が出たので、区の方とも相談して考えていきたいと思っております。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ほかよろしいでしょうか。
浜委員、どうぞ。

○浜知美委員

やっぴり感じてしたのは、やっぴりこういうことを重ねていくと、若い担い手が生まれるし、交流が生まれて、またどっかで会おうよみたいなことになると思うのですごくいいなと思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。やっぴり若者が楽しいと言ってくれるのがいいですね。大事にしていきたいポイントだと感じたところです。また、総合計画の審議会では区別計画も議論の重要な項目でもありますので、そういったところにも今の議論も反映できるといいなと感じた次第です。ありがとうございます。

それでは、次の議題に移ってよろしいでしょうか。

(2) 基本計画の検討について

○渡邊浩文部会長

では2の「基本計画の検討」についての議論に移りたいと思います。

こちらについては、前回竹川委員から Greenest City という素晴らしいご提案をいただいて、一気に議論が大きく動いたというところがありまして、あの場で私、若干いろいろなことを考えて心配したところですが、翌日の「地域とくらし部会」でも盛り上がったそうですし、審議会の会長もいい言葉だということで、ますますアクセルの踏み込みが強くなったということを踏まえての本日の会議ということでございます。前回同様、積極的にご発言いただければと思うところです。こちらについても修正版の資料を事務局が作成してくださっておりますので、その説明をまずはお願いいたします。

○松田政策企画課長

資料2-1、2-1についてご説明いたします。

こちらは前回の部会でいただいた意見を反映した資料ということになっております。資

料2-2が資料本体ということで、資料2-1、A4の1枚ペーパーはその内容をまとめた概要版ということです。主な修正点についてご説明させていただきますが、「地域とくらし部会」でのご意見を踏まえて修正した箇所もございますので、そちらの情報も共有しながらご説明させていただきたいと思っております。

まず資料2-1をご覧ください。最初に前回の部会で出されたご意見として大きいところでは、部会長からも話がありましたが、まちづくりの理念に掲げている「挑戦を続ける新たな杜の都へ」という理念は一番大切なミッション、ビジョンでありますので、より具体化して市民の共有はもとより、世界にも発信していくことが必要ではないかとの観点から、「新たな杜の都」を「The Greenest City」と表現するというご提言をいただいたところでございます。この提案につきましては、もう1つの部会でも賛同を得られたということで、今回資料に盛り込んでおります。

資料2-1では、まちづくりの理念の副題として「For “The Greenest City” SENDAI」掲げるとともに、目指す都市の姿が下にございますけれども、こちらにもGreenに4つの意味を持たせ、それぞれの都市像と関連付けているところでございます。

また、重点プロジェクトが右側にありますが、こちらについても大きな修正点があります。前は6つのプロジェクトであったところですが、部会でのご意見をもとに8つのプロジェクトに分けたところです。

具体的には、「防災環境都市」の掲げ方につきまして、仙台の防災力の向上・発信に取り組んでいくということは重要であるものの、一方でこれまで育ててきた杜の都の美しく快適な自然環境と生活環境の向上を、今回の総合計画でさらに打ち出すということであれば、プロジェクトにおいては、防災と環境を個別に扱って、それぞれの取り組みをしっかりと打ち出す方が良いのではないかとのご意見を頂戴したところでございます。したがって、前回お示した、「未来につなぐ防災環境プロジェクト」を2つに分けて、一番上、自然と調和した都市空間づくりを中心とした「杜と海の都プロジェクト」と、そしてその下が災害への対応や持続可能な都市基盤の確立を目指す「防災環境都市プロジェクト」に分けたところでございます。

またもう1点、前回の資料では「みんなで作る地域未来プロジェクト」というものがありまして、内容としては、多様性を活かしながら地域で支え合い、また住民や企業などさまざまな主体が関わって地域づくりを進めていくというプロジェクトがあったところです。この部分に関しても「地域とくらし部会」の方から、2つに分けたほうがいいのか。「地域」に着目したプロジェクトは、支え合いという守りの視点と、それから地域づくりというより積極的な攻めの視点とに分けてはどうかというご意見を頂戴したところでございまして、こちらも分けて、「心の伴走プロジェクト」と「地域協働プロジェクト」にしたところでございます。

以上が前回の部会で出されました大きな意見とそれに伴う資料の修正点でございます。

続きまして、資料2-2についてご説明させていただきます。

3ページをお開きください。こちらですけれども2の「私たち」につきまして前回、住民自治の基本にのっとり、仙台に住所を有する方々と、そのほかの方々の記載を並列にすることについてのご意見がありました。書き分けやバランスに注意が必要ではないかとの

ご意見だったということで、今回は、「私たち」のところを「仙台に居住する市民を中心に」と、その後に「多様な主体の方々」と列挙させていただいたところがございます。

次に6ページをお開きください。前回の資料では、1行目の書き出しが「先の見えない時代に突入」とあったところですが、ここにつきまして、「地域とくらし部会」からは、不安を煽るような表現ではないかというご指摘を受けましたので、「社会を取り巻く環境が大きく変化する中」と修正させていただきました。

また、資料6ページ、中段3行目に、「持続的な活力を生み出す」云々という部分がありますけれども、前回の資料ではここが「東北唯一の政令指定都市として」という表現があったところですが、こちら少し仙台市として上からの目線を感じさせるのではないかとのご意見をいただきましたので削除しているところがございます。また、先ほどご説明したように、一番上のまちづくりの理念に、「For “The Greenest City” SENDAI」を副題として追記するとともに、一番下の段に「持続可能な未来へ」というところになりますけれども「Green」に豊かな意味を込め、「世界を見据えて常に高みを目指す新たな杜の都をつくっていく」ということをここでも記載させていただいているところがございます。

7ページ以降は、都市個性とそこに立脚する目指す都市像をお示しするページが続いており、それぞれの都市像に関連する「Green」のイメージとして、都市個性の「環境」では「ネイチャー」、「共生」では「心地よさ」、9ページの「学び」には「成長」、そして最後の「活力」では「進め」、というような意味を添えております。

次の11ページには前回ご意見のありましたことをまとめておりますけれども4つの都市個性を掛け合わせながら目指す““The Greenest City” SENDAI”の実現に向けて取り組んでいくという概念図でございます。

12ページからは都市像の実現に向けて取り組む8つの重点プロジェクトをお示しているところがございます。12ページにはそれぞれ8つのプロジェクトがGreenest Cityを目指して、関連し合っていること概念図を中段のところにお示しているところです。メインのプロジェクトがそれぞれはたらく、機能する都市個性、目指す都市像はここですよということを概念的にお示しているところがございます。

続いて13ページ以降から8つのプロジェクトについて見開き2ページ1セットでまとめているところがございます。左のページにはそれぞれ目標と現状を示すデータ、そして右側には施策の方向性をお示しているところがございますけれども、全部のプロジェクトに共通の修正点としまして、データについては右側の施策の方向性との関連性が薄いものもあるのではないかとのご意見を頂戴しましたので、すべてのプロジェクトのデータを見直しまして、改めて関連性の深いデータに差し替えておるところでございます。

また、右側の施策の方向性で掲げたそれぞれの見出しがあります。前回は例えば「防災環境×人」「防災環境×まち」というようなことで、掛け算をなるべくイメージする見出しを付けていたところですが、前回のご意見として、「掛け算の要素に重複が多い」であるとか、「掛け算といいながらも掛け算になっていないのではないか」というような趣旨のご意見を頂戴したところでした。その後事務局でも検討したところ、そもそも都市個性・強みを掛け合わせていくという原点、姿勢であったということでプロジェクトごとに主な掛け合わせをお示しさせていただいたところがございます。13ページであれば、一番

上に「杜と海の都プロジェクト」。これは主に「環境と活力」、こちらを、強みを掛け合わせていくプロジェクトですと示しています。例えば共生という視点も入ってくるんですが、メインは2つの都市個性を掛け合わせていますというようなお示しをさせていただいております。

施策の方向性を見出しについては、むしろ目標に向かって何をしていくのかということをお示しすることが、いずれ総合計画を共有する市民の方々にも分かりやすいのではないかと、お手元の通り、実施の方向性として何をやるのだというところを明確にお示したところでございます。

次に、個々のプロジェクトにつきまして概要をご説明申し上げます。

13 ページが「杜と海の都プロジェクト」としまして、こちらでは杜の都の象徴的な都市空間、そして「みどり」に親しめる空間づくり、また、海岸公園や広瀬川など楽しめる水辺の空間づくりについてまとめているところでございます。

続いて 15 ページ、こちらが「防災環境都市プロジェクト」でございまして、実施の方向性としては、エネルギー負荷の軽減であるとか持続可能な資源循環と都市インフラづくり、そしてグリーンインフラの観点からの防災減災の推進、そして世界への発信ということをお示ししております。

17 ページからは、「心の伴走プロジェクト」としまして、多様性が尊重される環境づくり、そして多様性による地域での支え合い、そしてまた心を支える環境づくりとしまして、いじめ防止や貧困家庭の子ども居場所づくりなどをこちらの方にまとめているところでございます。

19 ページからは、「地域協働プロジェクト」でございまして、同じ多様性でも、こちらは多様性を力に変えて地域づくりをしていくという目標でございまして、多様な協働の仕組みづくり、そしてまた若者のチャレンジの機会づくり、また企業の力を活かした地域づくりなどに特化してまとめているものでございます。

21 ページからは、「笑顔咲く子どもプロジェクト」でございまして、実施の方向性としては、子どもの未来が広がる育ちの環境づくりに向けて、意欲を引き出す教育環境、この中にはグローバル化や情報化社会への適応や職業体験など、職業観の醸成などが含まれています。その下の個性に合わせた成長環境づくりには、多様性を認め合う教育環境、そして選択肢のある学びの環境づくり、その下の子育てを楽しめる社会環境づくりには、子育てサポートや子育てが楽しめるさまざまな環境づくりについてまとめているところでございます。

続いて 23 ページ、こちらは「ライフデザインプロジェクト」として、生涯を通じて自分らしく学び、働き、楽しめる環境づくりを目標としまして、まちなかに学びの機会があふれる環境づくりや多様な働き方の促進、また、民間企業のノウハウや ICT を活用した健康に関する取り組みなどをまとめている部分でございまして。

25 ページ、こちらは「TOHOKU チャレンジプロジェクト」としまして、世界と東北を視野に競争力のあるビジネス環境づくりを目標としまして、次世代放射光施設の整備を見据えたりサーチコンプレックスなどのイノベーションを生み出す取り組みであるとか、地域経済を牽引する企業の輩出、また農食ビジネスの推進などもこちらに入ってくるところで

ございます。

27 ページからが、「都心創生プロジェクト」として、現在仙台市で進めております「せんだい都心再構築プロジェクト」に関連の深いプロジェクトでございます。ビジネス環境の整備やまちなかのリノベーション、新しい賑わいの創出についてはこちらにまとめております。

以上が8つのプロジェクトでございまして、続いて29 ページからは、前回同様になりますが、分野別の計画として各施策を網羅的に盛り込んで分野ごとにお示しをしている部分でございます。こちらが29 ページから続いておりまして、39 ページからは、現在区とたたき台を作成している「区別計画」、そしてその後に「総合計画の推進」などが続くかたちを予定しております。なお、「総合計画の着実な推進」の部分につきましては、行政運営の姿勢としまして大都市としての視点、そしてまた地域の視点の両方を重視していくということ、また40 ページには「持続可能な行政運営」として財政運営、人材育成など仙台市として大切にしていきたい姿勢をまとめているところでございます。この部分につきましては、総合計画を策定し推進していく、いわゆる行政機関としての仙台市として重視していきたい姿勢をお示ししていきたいと考えているところでございまして、前段の8つのプロジェクトを進めていく「私たち」とは主体のトーンが異なるものではございますけれども、特に市役所も本庁舎の建て替えなど検討も進めているところでございまして、そのことも1つの契機として、時代の変化に即応した市役所運営などについて検討を深めていきたいと考えているところでございますので、ここにその旨をまとめさせていただきました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。それでは意見交換に入りたいと存じます。先ほど申し上げた通り、竹川委員ご提案の The Greenest City が入って、ちょっと締まった感じになったかなという印象を覚えました。これについても、Green に関連したご提案をいただいておりますし、さまざまに皆さまもおっしゃりたいことがあるんじゃないかと思えます。今回は、大きく変更となった「Ⅱ 新たな杜の都に向けて」と「Ⅲ 重点プロジェクト」について集中的にご審議いただきたいところではありますが、まとめ直していただいておりますので、頭から振り返ってご意見なり、確認を進めていきたいと思えます。

表紙に戻っていただいて、目次を開いていただくと「はじめに」というところがまずⅠとしてありますので、ここから始めましょうということでもあります。Ⅱ、Ⅲ辺りが今日のメインターゲットだということです。1つ目の「Ⅰ はじめに」には資料の1、2それから3、そして4のところに将来人口推計のグラフがありますが、4ページ分が第Ⅰ章というところでございます。

第Ⅰ章の部分では、3ページの私たちのところが、事務局からの説明にあった通り、仙台市の総合計画なのだからということで仙台市民を中心というような説明に変わったこと。それから「先の見えない時代」という表現を修正したということ。それ以外についてはあまり大きな修正はなかったというようなご説明だったかと思えますが、ご意見がある方はこの部分についても発言いただければと思います。いかがでしょうか。

おさらいがてら見ていきますと、1ページ目。最初に「まとめ」と左にオレンジ色の四

角の囲みがありまして、総合計画そのもののことが書いてあると。2つ目の四角の囲みでは「市民協働」ですとか「策定をする理由」、その次は「これまでの経過」、そして「時代の潮流」と。右のページに移りまして「東北における役割」、そして「まちづくりの理念」というところ。

特に指摘するようなことではないということであれば、いつも通りでありますけど先に進めつつ、また先の議論で振り返ってということも十分にあるかと思しますので、まずは進めていこうかと思いますが、よろしいですか。

榊原委員、どうぞ。

○榊原進委員

前回恐らく僕が、「仙台市」と「私たち」の主語が混在して、「仙台市」も行政としての仙台市なのか、あるいは市域、エリアとしての仙台市なのか、エリアとしての仙台市なのか、どういうふうにも捉えられますねと指摘しました。前回から比べて見ると、例えば、総合計画は「仙台の」で「市」が入ってないのです。前は「仙台市」で入っていました。たぶんその辺を意識していただいたのかなと思っています。ほか全部を見てみると、「仙台」というのと「私たち」とを組み分けて書いていただいているので、「私たち」は先ほど定義していただいたのですが、逆に「仙台」はどういう意味というか、定義というか、主語としてどう扱っているのかご説明いただければと思いました。

○松田政策企画課長

委員からご指摘のあった通り、そこを意識してなるべく分かるようにということで書き分けたところですが、仙台というまち、行政という、仙台市という市域、市域という味気ない気はしますが、仙台市というまちを指して「仙台」という整理をしました。

○渡邊浩文部会長

似たような議論が出てくるような感じもいたしますが、進めることにいたしましょうか。菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

2ページの「まちづくりの理念」について。2段目「誰もが豊かに暮らすことができる未来に向けて」と。豊かに暮らすということが、物質的な豊かなのかどうかということ、この前もお話ししたことがあります。これからの厳しい時代に豊かにと言い切っているのか。心豊かにと書いたほうが、必ずしも物理的には豊かじゃないけども、私たちの価値観も変えると書いているのだから、そういった意味での真の新たな次元の豊かさを求めていくと書いたほうがいいのではないのかなと思うのですけど。いかがですか。

○松田政策企画課長

意味合いとしましては、まさに量から質へというような流れはあると思いますので、必ずしも物質的に豊かということだけではなくて、いわゆる精神的にも豊かに暮らせると

いうところを意識しているところがございますが、少し表現の方は検討したいと思います。

○菊地崇良委員

言い忘れました。これまでのまとめ、1 ページのところに震災の云々と書いてきていることを見ると、「安全」というキーワードも外せないのではないかなと。「誰もが安全で心豊か」と書くことが、前の方の流れに合致するのではないかと思うのでご検討をお願いします。

○渡邊浩文部会長

ご指摘ありがとうございます。いかがでしょうか。

では進めていきたいと存じます。次のパートは「Ⅱ 新たな杜の都に向けて」です。4 つの都市個性のところまで含めて 11 ページまでの部分。ここに The Greenest City が記載されたと。それから 4 つの都市個性に Green の要素を加えて、そこから発展させてというか、概念を拡張させて言葉を添えているというところが大きな修正点かなと思います。

それに合わせて 11 ページの概念図というか、イメージ図、これも修正が入ったイラストになっているというところかと思えます。まずは忌憚なくご意見を言っていただきましょう。

菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

3、4 ページについて言いたかったのですが、戻っていいですか。2 の「私たち」です。前回話して直してもらったのですが、地縁団体の定義をどうしたのですかと前回質問を投げかけたと思います。地縁団体がもし町内会を主体とするのであれば、それは地域住民の方々なので、地域住民・地縁団体を中心に云々と書くということと、さまざまな仙台に関わる団体だけではなくて、これは学生も入っているのしょうから、団体ではなくて主体とか、方々とかというように直したほうがいいと思うのですがいかがですか。

○松田政策企画課長

前半が、どちらかという団体よりは人に着目した、市民とか方々、事業者というかたちで、後段に団体を持ってきているというところで書き分けたつもりではいるのですが、もう少し工夫をしてみたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。また 6 ページに戻っていただきまして、第Ⅱ章ですけれどもいかがでしょうか。

どうぞ、庄子委員。

○庄子真岐委員

前回、部会を欠席してしまったので議事録を拝見させていただきました。「The

Greenest City SENDAI」というのが、私もすごく共感したところがございます。今回目指す都市の姿で、Green からさらに Nature とか Comfort とかつなげているのですけれども、その中で Green Light、「進め」というのは、すべてのプロジェクトにかかってくるので、創造性と可能性が広がるまちだけに Green Light は使わないで、全体として Green Light を使った方がいいのではないかと思いました。3つ目が成長となっているのですけれども、これは一人一人の人間の内面的な成長に目を向けていると思うのですが、成長という言葉だけが出てくると、どうしても量的な、先ほど菊地委員からもありましたけど、量的な成長をイメージしてしまうのですね。今はどちらかという人口減少を迎える中、前向きな縮小が必要であったりするところで、成長という言葉だけが出てくるとすごく違和感を覚えましたので、例えば「挑戦を続ける」とありますから、ここも Challenge にしてしまってもいいのではないかと思いました。ですから Green Light のところ、例えば Creativity に代えてはどうかと思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。こいうったところは大事だと思いますので、皆さんどんどんご発言していただきたいと思えます。

では発信元の竹川委員。

○竹川隆司委員

文字だけでなく周りまで緑にさせていただいて、ありがとうございます。理念のところはやっぱりこだわったほうがいいと思っていて、The Greenest City と入れていただいたので、1つの方向性が出たなというのはありつつも、その上の日本語はそのままになっているのでもう一回考えてもいいかなと。どうしてそう思ったかという、先ほどの区ごとのワークショップの話とか、先ほどご紹介いただいた女性たちの政策提言の理念がすごくいいと思うのですね。「わたしたちがまちを創っていく」、「わたしたちが」というのは、すごく主体性があるいいなと思えました。先ほど飯島委員も「市民を巻き込んだ」といったような話をされていたので、それを考えると、「挑戦を続ける」は当たり前なので、例えば「私たちがつくる新たな杜の都」みたいな、「私たちがつくるのだ」という意思をここに入れたらどうかと。つまり「私たちがつくる新たな杜の都へ」みたいな。「挑戦を続ける」の代わりに「私たちが」という方向性をここに思い切って入れてしまうのはどうかと、先ほどまでの流れを聞いていて、新たに思った点になります。私も以前提案させていただいた中では、「世界における新しい杜の都 The Greenest City SENDAI をつくる」としていただいていたのですけれども、そのつくるということも大事だと思うので、「私たちがつくる」とか、「私たちがつくり育てる」とか、そういう文言を理念のところに加えたらどうかと。

あと、英語ができる方に確認いただきたいと思うのですけれども、「For The Greenest SENDAI」と言ってしまうと、少し意味合いが違ってきてしまうのです。「Toward The Greenest SENDAI」の方がきちんと方向性を示す英語なので、For ではないほうがいいのではないかなというのが、細かいのですが大事な点なので加えておきます。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょう。どんどんいろんな意見を言っていただく場なので。舟引委員。

○舟引敏明委員

非常によく整理をされてきてうれしく思っております。小さな言葉の使い方ですが7ページのグリーンインフラのところです。今まさにおっしゃった話と一緒に、これも機能を説明している言葉ではなくて、「グリーンインフラをつくっていかねばいけない」、「充実させていかねばいけない」という言葉遣いにしていただければと思います。

その一番大きな理由は、10日ほど前の「杜の都の環境をつくる審議会」、同じチームの10年計画の「みどりの基本計画」をつくる部会で、私が部会長で第1回目をやりました。渡邊部会長もこの委員です。どういう方向で作りましょうかと言ったところ、総合計画でグリーンインフラという言葉が出てきたのならば、次の10年間、みどりに関する施策もまとめていこうではないかという話をしました。その中で例えば台風第19号で駅前が少し冠水しましたが、中央分離帯に貯留槽を設けるとか透水性を増やしてとか、そのようなみどりのインフラで都市災害を少しでも軽減するというようなことも対象としていきましょうということを議論しております。3月上旬に次の部会があるので、それまでにグリーンインフラという名前ですでに次の10年間で新しい施策ができるのか、それをちょっと頭出しして、こちらのプロジェクトとか施策の中に直に書き込んでいけるタイミングになると思います。そういう意味でグリーンインフラは「つくる」とか「充実させる」とかそういうかたちの表現にさせていただくと、みどりの基本計画の方の部会もぶら下がりやすくなるということですので、よろしく願いいたします。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。このような感じでどんどん注文つけていただくというやり方で今日はよろしいですか。

○松田政策企画課長

できるだけたくさんいただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

ということですので皆さんどうぞ、積極的なご提案をいただければと思います。

私もちょっと喋ります。先ほど竹川委員がおっしゃられた、Forではないのではということも私も同様に感じていました。事前に今日の段取りの打ち合わせをしている時、Forなのかなという話をしておりまして、Towardの方が、向かっていく、運動のニュアンスが出るのでいいのではないのかなと思ったところです。

それから Green Light の、やろうぜっていうところが全体に関わるっていうところも、そうかなという気がいたしました。元々4つの都市個性を掛け合わせてというようなこと

ろの話にこの後展開していくことから、全体に関わるようなところは、もう少し取り扱いを丁寧にするようなことがあっていいかなと思ったところです。

先ほどの区別のワークショップで出てきたような次世代の担い手をどんどん育てていくという話は本当に大切なところだと思うのですが、それはどういうところに入ってくるのでしょうか。

○松田政策企画課長

担い手というか、いろいろ経験や学びを通じて仙台に関わっていただくというところでは、都市個性の「学び」のところが一番関わりが深いものかと思っております。

○渡邊浩文部会長

掛け合わせというところで、行政計画なのである程度整理する必要があるものの、どんどんはみ出していくようになっていくと、より良いのでしょうね。作文としては難しいのかもしれませんが。

いかがでしょうか。どうぞ、今委員。

○今里織委員

印象的なところなのですが、今の皆さんの話を聞いていて思ったのが、「活力」というのが一番最初に来てもいいのかなという印象を受けました。今もすでに活力がないわけではないと思うんです。次の担い手の皆さんもすでに活力のある方々が存在していて、その人たちも中心になって引っ張っていく、つくっていくことを考えた時に、次の 11 ページ、12 ページの次のプロジェクトとか概念図にも関わってくるのかもしれないですけど、例えば 12 ページの表の 4 つの都市個性が書いてある、矢印が書いてある図がありますが、活力とは全部に関わってくることなのではないのかなという印象がありました。書きぶりの問題になってしまうのかもしれないのですが、そんなイメージで、すべての活力になっているよねという、全部が関連しているので少し難しいところなのですが、そんな印象を持ちましたので、何と表現していいか分からないのが非常に申し訳ないのですが、よろしくお願いします。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。大事なご指摘だと僕は思います。11 ページの概念図も議論が深まっていますので、今一度チェックすると言いますか、検討するというようなステップがあって然るべきかと思うところです。

いかがでしょうか。ちょっと今重点プロジェクトの方にも触れかかったので、そちらの方にも踏み込みつつ、Ⅱ章、Ⅲ章を合わせて議論していくというふうに少しずつ進めることにいたしましょうか。

「Ⅲ 重点プロジェクト」は少しページが多くなりますけど、12 ページから 28 ページまでであるということです。6 つのプロジェクトだったものが 8 つのプロジェクトになったということです。小さくて読みづらいと言えば読みづらいですけど、12 ページの中ほどにあ

る、矢印の付いている図の枠の右下に、プロジェクト①、②ですとか③、④ということで、ところどころにプロジェクトが関わっていますよというような説明にもなっています。まちと活力部会では主に8つのプロジェクトのうちの1と2、そして7と8がメインの関わりのあるところだということですので、特に今触れた4つのところを中心にご意見頂戴したいところですが、もちろん1、2、7、8以外のいわゆる「地域とくらし部会」の方のメインの話題についても意見を言えないわけではございませんので、忌憚なくここもご指摘いただければと思うところです。

はい。庄子委員。

○庄子真岐委員

1つ目のプロジェクトと7つ目のプロジェクトについてです。「杜と海の都プロジェクト」、どうですかね。これは海ではなくて水ですかね。どうしても私は仙台で育って広瀬川を外せないのですね。海としてしまうと何か広瀬川が取り残されてしまう気がして、どうしても広瀬川を入れていただきたいなと思います。それだけです。

25ページと26ページの7つ目のプロジェクトなのですが、02の「仙台・東北の産業の成長を支える」というところで3つ目に「東北の食に着目した地産地消」とあるのですが、地産地消ももちろん大事だと思うんですが、地域経済循環を高めるということが非常に経済の成長にとってすごく大事なのですが、そういった意味で言うと「地消地産」もけっこう大事なので、東北域内の循環を高めるための地消地産ということも、やっぱり取り組んでいかなければいけないことなのではないかなと思ったので、そこも入れていただきたいなって思いました。そうなるともしかしたらその「現状」のところで仙台自体の地域経済循環率はたしか非常に高いのですが、宮城県とか仙台を取り巻く地域経済循環率は非常に低いので、その辺を出していただきたいなと思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。どんどんいきましょう。

先ほど舟引委員がご発言されたので、まずは今野薫委員から。

○今野薫委員

私も庄子委員と同じで、やっぱり広瀬川に少しこだわっておりまして、13ページのところの図が4つ、グラフが出ているわけですが、この一番左下のところ、公園の利用頻度という表記になっています。なかなか利用されていないよねっていう、これを利用していきましょうというのは、実は22ページの方で表現されているのですね。子育ての部分で公園をもっと利用していきましょうと。ここのところは、例えば広瀬川としての認知度だとか、そういうデータでもう少し広瀬川をクローズアップしていただいてもいいのかなという感じがいたしました。

○渡邊浩文部会長

舟引委員、どうぞ。

○舟引敏明委員

内容的には特に問題ではないのですが、言葉遣いが気になる部分がたくさんあるので。最初に1のプロジェクトの広瀬川については私も全く同感です。その同感のうえで14ページの下から2行目のところで「広瀬川をはじめとした水辺が映える景観づくり」。「水辺が映える景観づくり」とはいったい何だろうか。基本的にはプロジェクトなので、下に実際に動くプロジェクトがぶら下がるというイメージだとすると、この表現で何の施策があるのか思いつかないので、言葉が少し踊って、浮いてしまっただけではいけないので、必ずプロジェクトだとか施策がぶら下がっていくような書き方しておかないと、総合計画として、つながらないのではないかと。ここは表現も変だけど、何が施策としてくっついていくのだろうかと思います。

プロジェクト2は注文が多いのですが、全体の目標が「持続可能でしなやかな都市基盤をつくる」ですからインフラを整備するという意味だと思うのです。ところが、16ページの1つ目の01が「ライフスタイルを定着させる」という。これは人が目標みたいに聞こえるのです。人の暮らし方をこう何とかしろと書いているのですが、実はよく見るとそうではなくて、社会システムをそういうふうにしよと、交通も含めて。ですから全体の目標と実施の方向性が合致していない。

02も「持続可能な」が資源循環の仕組みにかかるのはよく分かるのですが、持続可能な都市インフラとかかっているのだと思いますが、資源循環の仕組みと都市インフラを並べて書くと、何を言っているか今ひとつよく分からないかな。ところが地の文を読むとよく分かるのですが、これも中身が少し合わないかなと思います。

それから03も同じで「日常に浸透させる」とはライフスタイルと同じで、やっぱり人の話になってしまっていて。中身はステークホルダーで、ここは災害リスクの取り組みの推進と書いているのですけども、その下のところはどちらかというとハードだとか、そういうことなので全体の目標と内容について。内容は全然問題ないと思うのですけれども、目標を合わせないといけないだろうなということ。

あと、プロジェクト8、ここは02のリノベーションという言葉の使い方なのですが。「まちのリノベーション」という使い方は、ここ5、6年になって初めて使うようになりました。住宅だとリフォームは元の形にきちんと戻すが、リノベーションとか間取りとかいじくって大幅に改変するといった使い方のアナロジーのようなので。まちの骨格はそのままにして、ある程度枠組みを広げてリフォームよりもっとフレキシブルにやっけていくというのが「まちのリノベーション」という言葉なので、そういう意味で公共空間だとか遊休不動産の利活用を通じてリノベーションをやるのは分かるのですが。その途中で「人と文化が織りなす」という不思議な抽象的な言葉が入っているので、実際何を言っているのかよく分からないなということ。

その次はいよいよ分からなくて、リノベーションを進めることができるのがクリエイティブな人材なのか、はたまた「クリエイティブな人材に訴求するまちづくり」というのはいったい何なのだろうか。言葉が浮いてしまっている部分があるので、リノベーションの推進、仙台では当然必要な施策だと思いますし、施策はある程度的確に表現していかない

と、このプロジェクトの表現としては少しまずいかなと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。

舘田あゆみ部会長代行、どうぞ。

○舘田あゆみ部会長代行

12 ページのところの重点プロジェクトの全体の図から以降のところ、イメージなのですけれども、The Greenest っていうのがここから後ろでは、なくなっちゃったなという気がしています。もう少し引きずりたいなという感覚があつて。例えばなのですけれども、最後の方とかに木になって森になっているような図があつてもいいのかな。例えば 14 ページですと実施の方向性に 3 つありますけれども、こういうのは 1 つ 1 つの葉っぱみたいなかたちになっていて、それを杜と水の都ですか、大きな枝とか幹みたいなのがあつてみたいなのを 8 つつなげていってすごく大きな木になって、これが活力、“The Greenest City” につながるような、何かどこかにまとめみたいなのがあるといいかなと。「この施策はつながっているのだな」というイメージにならないかなと思いましたが。せっかく The Greenest なので所々に挟まってくるといいのかなと思いました。

あともう 1 つですけれども、26 ページの実施の方向性に「02 仙台・東北の産業の成長を支える」とか、「03 仙台・東北に多くの人を呼び込む」と書いてあります。私、実は宮城県の総合計画審議会の委員でもあるのですが、宮城県の前回の総合計画審議会で複数の委員の方から、もっと仙台市との連携に積極的に踏み込むべきではないか、もっと仙台市とがっちりやらなければとの声が挙がりました。つまり宮城県としては仙台なしには考えられないのもっと密にやる必要があるのではないかというご意見が何人もの委員の方から強めに出ていました。仙台市から見ればもちろん仙台・東北・グローバルでいいと思うのですが、何となく仙台・宮城・東北ぐらいの拡張性があつた方がいいのかな、どうなのかなと。個人的には仙台・東北でもいいかなと思いつつも、そのようなご意見がありましたというご報告でした。

○渡邊浩文部会長

事務局から何かありますか。

○松田政策企画課長

ちょうど今総合計画の策定をされているということで、私どもも宮城県さんの情報を常に見ているところです。この間も意見交換をさせてもらったところですが、表現については今後また確認しながらどの表現ならいいのかということも含めて、調整させていただきたいと思います。

○渡邊浩文部会長

あともう 1 つ。舘田部会長代行からご指摘の、Greenest をもう引きずるという表現をさ

れていましたが、もっともっと埋め込もうというところも是非ご検討いただきたいところですね。

竹川委員、どうぞ。

○竹川隆司委員

私も全く同じことを感じたので、言わせていただきます。「世界に発信する」という気合いが入った文言がどこかに消えて、無くなってしまっているという気がしました。Green というキーワードを入れたグリーンインフラなのかグリーンビジネスなのか、そういうものと、それを世界に発信していくのだ、もしくはそのレベルまで持っていくのだという意味をやっぱり入れていただきたいなと思っています。それはプロジェクト2に入ってくるのか、もしくは26 ページのプロジェクト7のところの産業の成長を支えると書いてあるのにここに Green が入ってないのは、おかしいのではないかなとか。せっかく Greenest なので。そう思いましたので、まさに Greenest に関わるものを施策の中にも入れていただきたいと思います。所々に緑とか書いてあるのですけれども、もう少し全体として入れていただいたらいいのではないかなと思ったのが1つです。

全然違う話なのですけれども、全体の構成として、現状のところに出てくる数字とか指標を変えていただいたのはよく分かるのですけれども、4つという制約によって、本当にこの4つなのかというのがまだよく分からない。目標、現状、実施の方向性と見た時に、現状と実施の方向性が多少つながっているのですけれどもカバーされていないものがたくさんあるので、4つに拘らずに現状のところと比較すべきものはもう全部出すぐらいの感じの構成にさせていただいた方が、われわれは議論の経過を知っているので何となく分かるのですけど、初めて見る人が分からないのではないかなと思いました。

比較の中でも、公園の利用頻度50%は高いのか低いのがよく分からないのですね。他都市と比べるなり世界と比べるなり、都市比較にして、これが絶対的に相対的に高いのか低いのかということまで出していただくと、施策として何でそれを方向性としてこっちにやるのかということも明確になるかと思ったので。もっと現状の数字のところは増やしてもいいのではないかな。ページ数的に増やしてもいいのではないかなということと、より比較をしてほしいなというのが全体として感じた点です。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。

飯島委員、どうぞ。

○飯島淳子委員

まだよく分からないので教えていただきたいのですけれども、掛け算につきまして、前回から組み替えて作ってくださったということは承知しておりますが、どういう意味で掛け算になっているのか。個人的に奥村会長と話した時に、例えば、 $1 \times 2 \times 5$ で、5を10にするのは大変だけれども、1を2にすることですべてが倍になるというような考えをお示しになったことを非常に興味深く感じました。そのように見た時に、例えば、「杜と海

の都プロジェクト」で「環境×活力」となっているのは、どのようなかたちで掛け算の発想が活かされているのか。重点プロジェクトですので、具体的なプロジェクトを意識し、恐らく施策などに関わっていると思うのですけれども、それをどのようにつくってくださったのか、少し具体的に教えていただけますと有り難く存じます。

○松田政策企画課長

掛け算については、全体会の中では奥村会長がいわゆる都市個性、強みを掛け合わせていくのだというところの話がありましたので、それを軸に今回つくったところでございます。例えば「杜と海の都プロジェクト」については、まず仙台市としてはやはり豊かな自然環境というものがある。そしてそれが都心にもあるだろうというところに着目をして、掛け算としては環境を強めに、そしてまたいわゆるさまざまな活力としまして、中心部であったり、そういうところの都市機能もありますので、そういうところでより豊かな環境を生かしたまちを目指していこうというような掛け算で、主なものとして「環境×活力」というようなものにしたところでございます。例えば次の15ページの「防災環境都市プロジェクト」では、「環境×共生」とありますけれども、こちらについてはやはり防災環境都市として自然災害の軽減に向けたその環境を活かした取り組み、これも仙台市としてはポテンシャルがあるところなのでまず環境を挙げたということと、防災に関してはこの間市民の皆さまと一緒に作り上げてきた防災の強みがあるという、いわゆる共生の強みもあるだろうということで、ここで生かす主な強みは「環境×共生」ですというようなかたちで書いているところでございます。

そのようなかたちで1つ1つの取り組みについては、どの都市、強みの掛け算かというところまではちょっとなかなか書ききれないですし、必ずしもこの2つだけではなくて残りの2つの都市個性も関わっている施策はたくさんあるのですけれども、そうすると、まとめていくと非常に煩雑になるといいますか、説明し過ぎるようなところもありますので、括りとして主な都市個性、強みはこれを掛け合わせていますというような考えでお示しをしているところでございます。

○渡邊浩文部会長

飯島委員、いかがですか。しっくりきてないという感じですね。

なかなか難しいところかと思えますけれども、議論が進んで精度が高くなってくると、当然今のようなご指摘になっていくと思うのです。今日も幾つものご意見が出ているところでありますけど、意識してもう少し建て付けをしっかりとさせていくというのでしょうか。そのようなところも意識していく必要があるのだろうなと感ずるところです。

榊原委員、どうぞ。

○榊原進委員

何回か前にも話したかもしれないのですが7ページ目の環境の都市個性の説明文で、そもそも杜の都の由来っていう話があるのと、それが戦後、青葉山、定禅寺通のケヤキ並木というくだりがあるのですが、杜の都、水の都となった時に、やっぱり山側は里山も含

め、例えば大倉ダムは水源地にもなっている。例えば秋保温泉だとか温泉地もあって、里山にはそこに生活があって、ちょっと都市構造を俯瞰して見た時の仙台、それ全体が杜の都と見立てるぐらいの視点が必要かなと思っています。杜の恵みと言っているが、それはどう考えたらいいか。今なんとなく身近な恵みだけど、もしかしたら本当は遠いところにある恵みが今そこに来ているみたいな、循環しているようなもう少し大きな視点が必要かなと思っています。7ページの下に書かれている言葉もどう上手く言えばいいか。「風格を実感できるまち」っていうと、たぶん都市の中にある街路樹というようなイメージなのですが、もしかしたら先ほど舟引委員がおっしゃっていたようなグリーンインフラというもの、少し広くかかってくるのかなというところ。上手く言えないのですが、そのくらい引いたかたちで環境、都市個性としての環境をしっかりと位置付けてみてはどうかと思います。杜の恵みとはそもそも何だという定義がもう少しあると、そこに書かれてくる内容が大きく変わってくるのではないかなと思いました。

13ページ、僕もできれば海ではなくて水、川も海も含めて広瀬川は中心になると思います。それと14ページ。「みどり」を親しめるというよりもっと楽しむぐらい、「みどり」を楽しむ、楽しめるでもいいと思いますけど。都市空間、都市に限定していいかどうか悩ましいなと思っていて、温泉地もあれば泉ヶ岳みたいなスキーもできる空間もある。海と記載があったので、海の手と山の手という、レクリエーションできる、楽しめる場所が多様にあるのだからというぐらいの内容になると水の都プロジェクトがすごく生きてくるかなと思っています。

先ほど舟引委員が話された15ページの都市基盤。都市基盤と言っているのは単なるハードだけじゃなく生活しているその人たちも含めてなのかなと思います。これは16ページを読んでいてそういう印象を持ってしまったので、もしかしたらその都市基盤という言葉自体を変えてみるっていうのがいいのかな。持続可能性で都市、何て言えばいいのかわからないけれども、私たちの生活も含めてしなやかにできるということが重要な視点なんだろうなと思って見ておりました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

渡辺委員、今日ご発言がありませんけども是非。

○渡辺敬信委員

1点教えていただきたいことがありまして、14ページの実施の方向性の2のところにひらがなで「みどり」と表現していますが、これは何か意図があってひらがなにしているのですか。

○松田政策企画課長

「みどりの基本計画」という今仙台市が改定を進めている「みどり」、こちらがひらがなを使っているというところから持ってきています。「みどり」を緑という漢字で書くと、どうしても本当の樹木とか森林というかたちになりますが、ひらがなの「みどり」

にすると先ほどから話が上がっている、川とかそういうものも入ってくる。水辺も入ってくるというようなことがありまして、ひらがなで「みどり」と書いています。そちらを参照してこちらも含わせているというところがございます。

○梅内まちづくり政策局次長

今のように解説しないと分からないと思いますので、前からご意見ありますけども、用語については現在の表現では分かりにくい部分も確かにございます。今のような用語法についても、最終的な計画の段階にはうまく注釈を付けて、渡辺委員からご指摘があったようなことも含めて、考えていかなければならないと思っています。

○渡邊浩文部会長

菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

細かいところも含めて。6ページ、一番下から2行目。全体としては素晴らしくまとまったという感想を持ちながら、緑が「Greenという言葉に私たちにとっての豊かな意味を込め」と、苦勞してこういう言葉を選んだのだと思うのですが、しっくりこないというのが1つ目です。

それから8ページ。梅田川の清流の話なのですが、梅田川を特出しした理由があるのかな。広瀬川も汚かったよね。宮城野区に配慮したのかな。また、「共生」の中に身体障害者の話が入っているのだけども、これから増えていく高齢者への配慮は本文の中にいっぱい入っていくのかもしれませんが、高齢者がこの「共生」の中にも入ってこなければいけないのではないのかなと思います。

それから9ページ、これまでの歩みの下から4行目。「戦後社会教育が花開いたことも加わり」と。仙台市の社会教育が盛んだということも分かるのだけども、これまで多くの人が輩出されているのは「社会教育が花開いたから」ではないのですよね。島崎藤村など、仙台の偉人は多いが、社会教育はさらに後押しを加えたという話なので、この書き方は少し直した方がいい。考えてください。

そして10ページ。「これまでの歩み」の下から4行目。「東北6県から流入する方々に支えられている人口構造」、まさにその通りなのだけども、「流入」という言葉がいいのだろうか。「流入・流出」という言葉、役所だからこういう言葉なのだけども、全体が情緒的なところもあるから何か考えられないかな。

全体について言えることなのだけども、「都心再構築プロジェクト」を今回仙台市でやっているから、そこに引っ張られてその部分を色濃く事業に落とすために、全体の本文の中にも後の方にも書いてあるのだけどもコンパクトシティを目指すというクロス十字のまちづくりの話が抜けているのですね。ここをもう少し配慮していかないと都心再構築が終わったらもうそれで終わりなのかなってなってしまう。総合計画はもっと広いはずだから、入れていかなければいけないのではと思います。これは都市計画審議会の委員としての一言です。

それから、今日農業の代表の遠藤耕太委員がいないので代わりに言うのだけでも、14ページに「みどり」とありますが、農地の多面的機能について以前話しました。これは都市計画審議会でも出ていまして、田んぼのもっと有効な活用の仕方が、あるいは弾力的に都市づくり、まちづくりに資する開放地というのが田んぼではないのかという考え方があったので、たしかに「みどり」の中に入ってくるのかもしれないのだけでも、田園風景というものが想起できるような文言を13ページの目標の中に入れるのか、あるいは14ページの海岸エリアの中に入れるのか検討してほしい。

そして、14ページ以降の書き方です。実施の方向性01、02、03とあって、それぞれのポツに具体の事業が並んでいるのだけど、ポツの書き方のトーンが全体的に合っていないかなと思います。例えば、ポツ1は広義の話をして、ポツ2は事業の話をするのかなと思って見たら、後ろにいくとそうでもなかったりするので、トーンを少し見直した方がいいのではないかなと思います。

また、23ページ「学び×活力」、25ページ「活力×学び」、27ページも「活力×学び」と順番が入れ替わるのだけど、入れ替える意味はあるのか。その部分が気になります。

さらにもう1つ。これが気になりましたので、ご検討いただきたい。28ページ、01の3ポツ目。ICT云々とあって、「都心への誘致や既存オフィスの拡張に伴う移転を促進」とは、市民から見たら誰を主体にして言っているのか分からないと思います。もう少し丁寧に。後はICTとそれからIoT、AI、ロボット、これらを混同してないかどうか、もう1回チェックが必要ではないでしょうか。

○渡邊浩文部会長

たくさんご指摘いただきましたので、丁寧に精査していただければと思いますということではよろしいですね、まずは。

どうぞ、今委員。

○今里織委員

今出ました農地について。私も田んぼのど真ん中で育ったものですから田園風景とか仙台の都心もありながら田園地帯があるというのはすごくいい景色だなと思っていますのでそこも書き加えていただけたら。私も同感でございます。

そしてもう1つが18ページの「03心を支える環境をつくる」のところ。括弧書きの中に「貧困家庭の子ども居場所づくり」という文字があるのですが、貧困家庭をまずつくらないという、格差社会をなくしていくという取り組みがまずあるべきではなかろうかと思いましたので、「孤立しない」なのか、それとも「心を支える」のところなのか、そこは私も労働組合なので、格差をなくしていくというところでは非常に頑張らなければならないところではあるとは思いますが、仙台市の方にもそういった文言が1つあると良いのかなと思いましたので、その辺の視点も入れていただけたら良いかと思いました。

そして17ページ、「地域における支え合いに必要なこと」、現状の左下のところです。ここにポツの2つ目、「顔の見える関係性を築くため」の云々とあって、「多様性を認め合い支え合う意識の啓発などが求められている」というところなのですが、啓発だけではな

くて支え合うことそのものが求められているのだなと思ったので。細かいところなんです
が、細かく1つずつ見ていた時に、もしかしたらほかにも直した方が良いのではという
ところがありましたので、ご意見させていただければと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。「地域とくらし部会」のプロジェクトの方にもコメントが入り
始めて、そちらも遠慮なくご意見賜れればと思います。

浜委員、どうぞ。

○浜知美委員

分野別の後になるのですが、施策一覧というのは、具体的に課題を解決するためのそ
の施策になるということなのですね。

○松田政策企画課長

29 ページ以降の分野別施策でしょうか。

○浜知美委員

そうです。

○松田政策企画課長

基本計画が2段構成になっていて、1つはいわゆるプロジェクト、すべての施策は必要
ですけれども次の10年間どこにフォーカスを当てていきますかというのが前段のプロジ
ェクトです。後段はやはり総合計画なのであらゆるものを網羅しておく部分ということで
書いておりますので、課題解決もそうですし、そうではない、いわゆる活力づくりとか、
学びとかも全部こちらの方に入っているというところでございます。

○浜知美委員

たぶん私のような一般的な思考が強い人は、まず課題が浮かんで、ではどういうものを、
文言を取り入れればいいのかというところにくるので、もしかして今考えているところで、
その文言が足りないのかもしれないですけど。後々施策を考えていた時に、細かい施策の
部分も私たちは話し合うのですよね。ではそこで足りなかったことをさらにここに追加し
ていただくということはできますか。

○松田政策企画課長

はい。そうです。すべてをプロジェクトに入れてしまうとプロジェクトがプロジェクト
ではなくなってしまうのですが、それでもやはり大事な取り組み、地道な取り組みと
いうのは当然ながらあるわけですし、そういったものは分野ごとの方に入れていたつもり
ではあるのですが、プロジェクトには載らなかった事業というのは、すべからず分
野別の方には何らかのかたちで落とし込んでいかなければならないと思っていますので、

そういった観点のご議論も今後していただこうと思っております。

○浜知美委員

結構細かいことが思い浮かんできて、「あれ、ここの文言に入っていたかな」と今見直していました。プロジェクトの方にはあまり学校の先生のことに関して書いてはいなかったのですが、こっちの分野別施策の方には先生の環境づくりとかが書いていたので、その辺をまた先の方で何か見つけたら発言させてもらおうかなと思いました。

○菊地崇良委員

21 ページの「笑顔咲く子どもプロジェクト」です。教育局の方では今たくましく生きる力、「たく生き教育」を重んじて取り組んでいます。そこを目標に中に入れなかったのはもしかしたら障害を持った子どもたちがたくましく生きるということが厳しいということから外したのかなと想像するのですが、目標3行目の「人生を切り拓く力を育む」という言葉でいくのであればそれもいいのだけでも、教育局に確認した方がいいのではないのかと思うのと、ちょうどそのまま下に目を転じていくと、グラフ4つの左下、「自分には良いところがある」割合の説明の2ポツ目。「児童・生徒が社会を生き抜く力を育むため、その土台となる自己肯定感を」というのが、こういう表現でいいのか。自己肯定感は社会を生き抜く力を育むためって書くのかな。ここも1回よく見てもらった方がいいと思います。

それからグラフですけど、中学になって急に中2から減っているように見えるのだけでも、私の記憶では中2は落ち込むのだけど中3から上がるのですよね。ここももう一度見ていただきたいなと。もしこの縮尺の関係で同じように見えるのだったら、少し縮尺の%を変えて、きちんと差が、上がっているなら上がっているように見えるようにチェックしてもらいたいと思います。

あともう1つ、22 ページ、非常に微妙な話なのだけでも、1ポツ目の「性的指向や性自認」という表現をこう書くことが、別の書き方はないのかなと思います。これも後でご検討いただければ構いません。お願いします。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。

竹川委員、どうぞ。

○竹川隆司委員

細かい点を幾つかということで、ほかのプロジェクトも含めてなのですけれども。20 ページの3番目の「企業の力を地域に活かす」というところ、地元の企業の話だけをしているのがちょっと気になっております。たしか仙台市の特徴は支店比率が政令指定都市の中で一番高いということだったと思うのですが、デメリットとかネガティブによく捉えられるのですが、私はポジティブに捉えています。これだけ自動的に優秀な人が支店という名の配属の下で集まるのはすごいことだと思うのですよね。私元々野村証券だったの

で仙台支店にどれだけ優秀な人が集まるか分かっているのですけど。支店を減らしたいのではなく、その人たちを活かすということの視点をもっとポジティブにやるべきではないかなと、私は思っていました。ですから「企業の力を地域に活かす」という時に、地元企業はもちろん重要なのですけれども、そうではない地元ではなくて来ている企業の力をもっと活かすという視点も、ここの中に入っていいのではないかなと思いました。それを常々思っていたので今ここで加えさせていただきます。

あと 26 ページ、これはすごく細かいのですけれども、イノベーションという言葉が出ているので幾つかということで、特にお話させていただきます。

01 の 2 番目の「地域産業の強みや課題を切り口に IoT や AI、ロボットのテクノロジーと異分野を掛け合わせ」という「異分野」というところがよく分からないなど。新たな製品やサービスを生み出す仕組みづくりとあるのですけれども、これ新たな製品やサービス、ビジネスモデルみたいなものを入れた方がいいのではないかな。今世界で名だたる企業のほとんどの成長の源泉は、製品力、サービス力よりビジネスモデルだと思っています。そこをしっかりとこの中で打ち出してもいいのではないかなと感じました。その下の「東北全体をフィールドと捉えた社会起業家の育成・成長支援」というところが、フィールドだけでは分かりにくいかなと思いましたが「東北全体をフィールドに地域課題の解決に取り組む社会起業家の育成」とか、社会起業家の前にワンステップ入れてもいいのではないかなと感じました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。いかがでしょうか。

榊原委員。

○榊原進委員

28 ページですが、1 番目の「投資を呼び込むビジネス拠点」というのはどこをイメージしているのか。都心全体をビジネス拠点と言っているのか、どこか特定のエリアを想定しているのかというのが 1 点です。3 番の「新しい賑わいを生み出す」が何かしっくりこないと思っていて、文章を読んでいくとその各エリアに多くの個性、特性が強まってそれをノードにして、都心全体の回遊性を向上させましょうっていう意図なのかなと思うので、その辺はそういう書き方がいいのかなというところです。ビジネス拠点というのはどういう定義にしているのか教えていただきたい。

○松田政策企画課長

具体的にビジネス拠点が都心のうちのどこであるというところまで実は考えているわけではなくて、投資を呼び込む拠点を都心の中にたくさんつくりたいというイメージでここに書いたもので、具体的にこのエリアをというわけではないのですけれども、分かりづらいということであれば表現の方は少し工夫したいと思います。

○渡邊浩文部会長

いかがでしょうか。そろそろ 20 時が近づいてまいりました。今日のメインのⅡ章、Ⅲ章のところ、たくさん出て良かったと思っておりますけれども、その後の部分でちょっと話題になりかけましたが「分野別施策一覧」ですとか、「区別計画」、これは 39 ページに少し書いてありますけれども、これですとか、最後のⅣ章の「総合計画の着実な推進」、さらに「資料編」、40 ページの下の方にこういったことを資料編に載せませうということが書いてありますが、この辺もご意見等々いただければと思います。

後 10 分です。資料 2-2 を一通り見ておこうというようなことで、もうちょっと議論を先に進めたいと思いますが、いかがでしょうか。

先ほどのⅣ章の一覧のところは、もう少しこれからもまだまだ議論が必要だというような話をご指摘としてあったかとは思いますが、区別計画についてもせっかくワークショップみたいなものも盛り込まれると、そのままではないののでしょうかけれども、盛り込むべき内容は盛り込まれていくという理解でよろしいですね。

○松田政策企画課長

はい。その通りでございます。意見は踏まえたうえで区別計画の方をどんどん充実させていきたいと思っております。

○渡邊浩文部会長

特に総合計画では重点プロジェクトで都心創生プロジェクトということで、都心の再構築みたいなものがクローズアップされていて、それはそれでとても大切なことですし、いいことだと思うのですが、先ほどもちょっと議論にあったように、いわゆる東部地域と山間地とその間にあるようなところもさまざまな問題もあるところですので、どこまで区別計画で書くかっていうところもまた後でもいいのですが、今のところ分からないところがありますけれども、大事にさせていただきたいところかなと思うところですね。

○松田政策企画課長

区別計画に関してはなかなかたたき台をお示しできなくて大変申し訳ないところではありますが、今部会長がおっしゃったように、全市計画では見えてこない部分というのがあります、やっぱり地域ごとの状況はそれこそさまざまです。仙台市は人口がまだ増えているけれどももうすでに減少になっている地域もたくさんありますし、仙台市は非常に市域が広く、今おっしゃったように、都会もあれば、山もあれば、住宅地もあればというところ。そういったところ、区別と言いつつもさらに区の中でもさらに地域があるわけですし、そういったところに着目をしながら大きな方向性にはなりますけれども、どのような地域を目指していくのかというところを書き込むのが区別計画となっておりますので、いずれより細かい地域の視点でのものが区別計画の方にすべて入ってくると思っていただければと思います。

○渡邊浩文部会長

その辺の議論はこの部会というよりは、全体での審議会に戻ったくらいのタイミングで

出てくるような話題なのでしょうね。

○松田政策企画課長

全体の方に戻った段階で区別計画の骨子的なものをお付けして議論していただきたいと思っております。

○渡邊浩文部会長

ということで後半部分ですけれども。

菊地委員、どうぞ。

○菊地崇良委員

「Ⅱ 新たな杜の都に向けて」に書いていることは、重要なことなのですよ。そうなるとその内容が分野別施策の中に出てこなければいけないのかなと思ひ、例えば定禅寺通の話や、市役所の建て替えの話などがこの後ろの、30ページの分野別施策の「活力」のところに反映されるのかなと見ていたのですが出てこない。前の方に書いてあるのは後ろで拾わなければならないのですが、書いてない理由があるのでしたら教えてください。

それから小さい話なのですが、36ページ、(1)の「豊かな生涯学習機会」のところ。社会教育施設の括弧書きの説明の最初が、動物園からいきなり入るのですね、社会教育施設、この順番でいいのか。図書館から入っていくのではないのかな。そういう優先順位もよく担当部局に聞いていただきたいなと思ひます。

それからもう1つ、37ページ。下から6行目、「仙台西部地区における豊かな自然資源や温泉等を活かした」というところ。秋保と作並を意識した話なのは分かるのだけど、それだけではないのですよね。今から例えば東部地区だって、沿岸部の利活用で藤塚に温泉を掘ったりするわけでしょう。西部地区だけを書くのが本当に適切かどうか、もう少し包括的な書き方にして別の資源についても光を当てるようにするのか、もう少し今後のつくりこみの中で見ていく必要があると思ひました。

それと39ページの「(1)大都市としてのまちづくり」。前の方のページでは、仙台は東北の方々の流入の話がありましたよね。そういう東北全体の活性化を維持することが最終的には仙台の持続可能につながるという表現を入れた方がいい。これだと少し偉そうに見える気がします。

先ほど私が感じた分からないところ、今お答えできるなら教えてください。

○松田政策企画課長

先ほどの浜委員のご質問にも関係あるのですが、プロジェクトに書かれてあるものも分野別にすべて盛り込んでおります。定禅寺通の件につきましては38ページの「4エリアの特性を活かし活力を生み出す都市機能の強化」の(2)の3つ目のポツに「定禅寺通活性化をはじめ」と入れてありました。ただ抜けているものがないか改めて確認したいと思ひます。表現については改めて精査したいと思ひます。

○菊地崇良委員

40 ページの「持続可能な行政運営」、「健全な財政運営の推進」は、その通りなのですが、今、中長期の財政見通しも出していますよね。その中でまちづくり政策局が今、1つの可能性として公民連携と言っていますよね。公民連携と書かない理由はあるのですか。明確に書いた方がいいのではないのでしょうか、と思いました。

○渡邊浩文部会長

よろしいですか。

○松田政策企画課長

検討いたします。

○渡邊浩文部会長

まずは舟引委員から。

○舟引敏明委員

内容の問題というよりは整理の問題です。分野別施策一覧がどこにぶら下がっているかが分かりにくい。例えば、7 ページの下の目指す都市の姿と 29 ページの分野別施策一覧の体系との関係です。7 ページの「環境」の一番下のところ、2 項目になっている目指す都市の姿は、29 ページでは3 項目となっている。7 ページの「杜の恵みとともに暮らすまち」の下に対応する目指す都市の姿には3 つぶら下がり、「共生」では4 つぶら下げるように整理すると 29 ページ、30 ページの分野別施策体系との整合性が取れてくる。31 ページ以降はあまり脈絡がなくなってしまうかもしれないのですが、そこぐらいはつなげると分かりやすくなるのではないかと思います。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。

庄子委員、どうぞ。

○庄子真岐委員

飯島委員の「実効性の担保」ということがすごく気になっていて、その実効性を担保することがものすごく大事だと思うのです。実効性の担保という点からいうと、このプロジェクトの中に誰がやるのかということが一切入っていないくて、最初私たちがつくるから私たちとなるとたぶん誰もやらないのではないかと思います。私はやりますよ。細かい施策を見てもあまり入っていないのですね。書けないところもあると思うし、お願いしなければいけないところもあると思うのですが、実効性の担保の観点からいうと、書けるところはこういう仕組みをつくりたいでもいいので書いていけたらいいのかなと思いました。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。

浜委員。

○浜知美委員

「実効性の担保」をもし言うのであれば、何か具体的にはまだ落とし込めないのかもしれないですけど、具体的な数字とかがあるほうが目標となるし、分かりやすいのかなと思いました。例えば環境問題とかも。

○渡邊浩文部会長

よろしくご検討いただければと思います。

榊原委員。

○榊原進委員

39 ページの「地域を重視したまちづくり」を読んでいてすごく思ったのですが、実効性の担保にも関わるのですが、「区役所の機能強化を進めていく必要があります、地域のニーズに細かく対応し」と、無尽蔵に対応できますかということに逆を思っていて、行政ができることはたぶんこれから限界が出てくるのではないかなと思っています。地域でできることは地域でやって、その後は行政でやって、それでもできないってことであれば「協働」という枠組みがあると思うのですが。審議会の初期に言ったかもしれないけど、「やります計画」になってしまうので、「行政はこのラインから先はできないのですよ。」ということを書けないにしても、ある種、「逆実効性担保」なのですけど、やっぱりそこは地域の皆さんにも頑張ってもらいたいというメッセージはどこかに記載した方がいいのではないかと常々思っています。やればやるほど、たぶんもう地域で対応する、行政に何人いても、強化しても、どんどんやるが増えるだけになってしまうのではないかなと思っています。地域を重視するのは当然なのですが、今日の議論でなくても今後を検討するうえでも大切なテーマかなと思いました。

○菊地崇良委員

「実効性の担保」、まさにお三方がおっしゃった通りなのですが、私も以前に申し上げたことがあります、その都市のあるべき姿と、都市に住む市民のあるべき姿を、ここに書くか書かないかは別にして必要です。予算規模がダウンサイジングしてきます。今おっしゃった通りなのです。そうなった時にわれわれがどういう覚悟で、市民の義務と権利、あるいは自助と公助、共助の、公ができない部分の共助と自助がどうあるべきかを書く時期に来ていると思います。今回を逃したらもう書けないと思います。

○渡邊浩文部会長

よろしく願いいたします。いかがでしょうか。

20 時になりましたので、そろそろ閉じなければいけないところです。

当初この部会はたしか3回ということで予定されたかと思うのですが、議論がまだ

足りないところがあるということでもう1回やろうと事務局と相談しておりました。ですので、3回の予定だったとはいえ今日でおしまいではなくて、もう1回やったらいかがでしょうかというようなことで進めていきたいと思っております。そういう意味で今日のご指摘も事務局で再検討していただいて、直すべきところを直していただいたようなものを、次回またお示しいただけるという理解でよろしいわけですね。

○松田政策企画課長

はい。その通りです。

○渡邊浩文部会長

ではそういったことも踏まえたうえで、今日はそろそろおしまいかなって思っております。が、これだけは言っておきたいということがあれば遠慮なくおっしゃっていただきたいと思っております。

では今日の特に2番目の議題である基本計画の検討も審議はここまでにしたいと思っております。ありがとうございます。次回までまた事務局の方よろしく願いいたします。

(3) その他

○渡邊浩文部会長

最後に「その他」という記載がありますけれども、何かあると聞いておりますが事務局からお願いできますでしょうか。

○松田政策企画課長

最後は事務局からの皆さま方へのお願いごとになるのですが、いよいよ来年度は計画策定の最終年度というところになります。市民の方々にも広く取り組み、つくっているということをお知らせに力を入れていきたいと考えております。毎月各家庭に配布しております市政だより、こちらは極力活用して来年度は何人かの審議会の委員の方々にインタビューさせていただき、その記事を掲載するというを考えておりました。紙面の都合上、また12カ月というところもありまして全員の方々というところはなかなか難しいのですけれども、その時々の特ピックスを踏まえまして何人かの方にお問い合わせをさせていただきたいと思っております。後ほど事務局から個別に連絡をさせていただくことがあるかと思っております。その際はもちろん日程調整等は最大限配慮させていただきますが、ご協力くださいますようよろしくお願いいたします。

○渡邊浩文部会長

というお願いがございました。先だって姥浦委員と舟引委員が出ていらっしやいましたよね。あれとは別枠、別シリーズですか。

○松田政策企画課長

まちづくりという観点では似ているのですが、姥浦委員と舟引委員に出いただいたの

は、今年度が市制施行 130 周年、政令指定都市・区制移行 30 周年ということで、これまでのまちづくりに関してを踏まえてというところがありました。次は総合計画により特化したかたちでと考えております。

○渡邊浩文部会長

はい、よろしいですね。

榊原委員、どうぞ。

○榊原進委員

せっかくなので掛け合わせを。1 人と言わず、全然違う人同士でというのもそこでも掛け合わせをしてみたら。ジャストアイデアなのでどちらでもいいですが。

○渡邊浩文部会長

前向きにご検討いただければと思います。よろしいですね。事務局から要請があった場合には快く引き受けていただければと思います。

委員の皆さんからそのほかということであれば。何か。よろしいですか、では本日の議題は、以上で終了とさせていただきます。

3 閉会

○渡邊浩文部会長

事務局から連絡等々ございましたらよろしく願いいたします。

○松田政策企画課長

事務局から 1 点ご連絡と、それから竹川委員からのご連絡の機会を設けております。

まず事務局からのご連絡ですけれども、次回の審議会の日程でございまして、お手元の座席表の裏面に今後の日程について記載しております。部会長からも話がありましたが議論が詰め切れていないところもあるということで、もう 1 回追加で開催するというところで考えております。次回第 4 回の「まちと活力部会」は、3 月 23 日月曜日 18 時からということになります。ちなみにもう 1 つの「地域とくらし部会」はその 2 日後の 3 月 25 日水曜日となっております。年度末のお忙しいところではございますがご出席よろしく何卒お願いしたいと思っております。

また、本日のお帰りの際のご連絡ですけれども市民広場側の 1 階正面玄関が施錠されておりますので、西側の夜間出入口をご利用いただきたいと思います。職員が誘導いたしますのでよろしくお願いいたします。あと今お配りしておりますが竹川委員から皆さまにお知らせしたいということがありますので、竹川委員よろしく申し上げます。

○竹川隆司委員

今お配りいただいたのですが、2 月 26 日に、SENDAI SOCIAL INNOVATION SUMMIT 2020 というのを開催いたします。これは仙台市主催でわれわれ IMPACT Foundation Japan が運

営させていただいています。仙台の社会起業家のアクセラレータプログラムというのをやっています、30人ぐらいの候補者の中から12名の方を選んで、そのうえで半年間の支援をしてきたということなのですが、その発表会になります。裏面を見ていただくと左上のゲストの早稲田の入山先生が一番有名どころですけれども、入山先生も今ビジネスサテライトに出ながら今ソーシャルイノベーションというのを、去年のサミットに出たていぶ意識されるようになって、今回ガチガチにと言ったらあれですけれども、全面的に出てくださいようなかたちにもなっておりますし、右下にある採択起業家という方々、いろんな課題に取り組んでいますけれども、まさに先ほど誰がやるのかって話がありましたが、市役所ができない、もしくは仙台市でできないことはこういう人たちがやっていくというところをご覧いただけるいい機会かなと思っていますので、是非皆さまも、もしくは皆さまのお知り合いの方にもお声がけいただければということでチラシは大量にございますので、もしよろしければ何枚でも送らせていただきます。よろしく願いいたします。

○渡邊浩文部会長

ありがとうございます。ほかよろしいでしょうか。はい、それでは以上を持ちまして本日の審議会、「まちと活力部会」を終了といたします。皆さまどうもありがとうございました。